

四国八十八札所お遍路報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 2011年4月12日(火)～18日(月)

回数 第2回・四国お遍路

参加者 後藤隆徳、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、高岡八千代、土屋弥生、陶山泰信(お遍路でなくランニング) = 8名 + 1名

- 巡礼寺・順
- 十八番札所 恩山寺(おんざんじ・徳島県小松島市田野町字恩山寺谷40)
* 本尊・薬師如来 * 山号・母養山 * 宗派・高野山真言宗
* メモ=十七番から長い。小高い山の上にある。

 - 十九番札所 立江寺(たつえじ・徳島県小松島市立江町字若松13番地)
* 本尊・延命地藏菩薩 * 山号・橋池山 * 宗派・高野山真言宗
* メモ=町の中だが本堂は巨大で立派。

 - 二十番札所 鶴林寺(かくりんじ・徳島県勝浦郡勝浦町生名字鷲ヶ尾14)
* 本尊・地藏菩薩 * 山号・霊鷲山 * 宗派・高野山真言宗
* メモ=お遍路さんから「お鶴さん」などと呼ばれる阿波の最大の難所の一つで、標高約五百[㍎]の山頂にある。険しい遍路道の道中には、南北朝時代に建立された寺まで距離を示す「丁石」が13基残る。2010年には四国霊場を巡る遍路道では初めての国の史跡に指定された。

 - 二十一番札所 太龍寺(たいりゅうじ・徳島県阿南市加茂町龍山2)
* 本尊・虚空蔵菩薩 * 山号・舎心山 * 宗派・高野山真言宗
* メモ=歩く遍路は鶴林寺から二^キ下り、麓の道を五百[㍎]ほど歩いて那賀川を渡り、鶴山よりもきつい山頂までの三^キの急な山道を登る。車は下車後約一^キの急坂を歩いて登る。かつての難所だけあって今もきびしい。青年のころの太師は、一沙門に求聞持法を授かってより、阿波の大龍岳や土佐の室戸崎を修行の地とされた。境内から向こうの山に鶴林寺が遠望出来る。

 - 二十二番札所 平等寺(びやうどうじ・徳島県阿南市新野町秋山177)
* 本尊・薬師如来 * 山号・白水山 * 宗派・高野山真言宗
* メモ=霊水がある。この霊水は開運鏡の井戸として、本堂石段の左にあり、どんな日照りにも枯れることなく、こんこんと湧き出ています。万病にきく「弘法の霊水」として、全国に知

られています。

- 二十三番札所 薬王寺（やくおうじ・徳島県海部郡美波町日和佐）
 - * 本尊・薬師如来 * 山号・医王山 * 宗派・高野山真言宗
 - * メモ＝美波町へは平等寺から三つの峠を越える。薬王寺は日和佐の町を見下す山の中腹にあり仁王門から三十三段の女厄坂。本堂までの四十二段の男厄坂がある。女三十三歳、男四十二歳が厄年で厄年の人は厄銭を落としながら登る。四国一の厄除けの寺だけに年間百万の人が参拝する。

- 二十四番札所 最御崎寺（ほつみさきじ・高知県室戸市室戸岬町 4158-1）
 - * 本尊・虚空蔵菩薩 * 山号・室戸山 * 宗派・真言宗 豊山派
 - * メモ＝室戸までは八十五キロあまり、途中の八坂八浜の美しい海岸で、弘法大師が鯖を蘇生させたと伝える番外「鯖大師」がある。土佐路は穴喰をすぎてまもない甲涌から。荒涼とした海岸沿いに一本の通がどこまでもつづく岬の突端に洞窟があり、御蔵洞という。十九歳のとき大師は洞窟にこもって「求聞持の法」を苦行のはてに成就する。「土州室戸崎に勤念す。谷響を惜しまず、明星来影す」と自ら書かれ「法性の室戸といえど、われすめば、有為のなみかぜたたぬ日ぞなき」と、ご自身で詠まれている。御蔵洞の先に最御崎寺への登り口がある。

距離・宿・温泉

4月12日（火）

上鮎喰橋（前回最終地）～地蔵院～R55～恩山寺～民宿「ちば」＝約13 Km

民宿「ちば」 0885-33-1508 徳島県小松島市田野町字恩山寺谷21
一泊二食6825-

- ・恩山寺入り口 ・トイレはウォシュレットでない ・食事はまあまあ
- ・お風呂は1Km先の「お宝の湯」あり ・ドライバーは無料割引

4月13日（水）

民宿「ちば」～4Km～立江寺～13.1Km～鶴林寺～6.7Km～太龍寺～3.9Km～龍山荘＝約27.7Km（山道二ヶ所）

民宿「龍山荘」 0884-25-0658 徳島県阿南市加茂町黒河6
一泊二食6500-

- ・食事はまあまあ ・トイレはウォシュレットでない ・お風呂は宿に大きいものがある ・外人さんが泊まっていた

4月14日(木)

龍山荘～7Km～平等院～約20.7Km～国民宿舎「うみがめ荘」＝約27.7Km

「うみがめ荘」 0884-77-1166 徳島県海部郡美波町日和佐浦370-4
一泊二食6600円

- ・食事はまあまあ ・設備は古い ・トイレはウォシュレットでない
- ・大トイレが狭くて参った ・トイレの履物がない
- ・風呂は館内にある ・宿泊費を前払いで請求された
- ・出来れば泊まりたくない宿

4月15日(金)

国民宿舎「うみがめ荘」～約1Km～薬王寺～小松大師～鯖大師～約26.5Km～海南町地先＝約27.6Km

「大和館」 0887-29-2100 高知県東洋町甲浦
一泊二食6000円

- ・食事は良かった ・宿は綺麗だった ・6000円では安い
- ・泊まりたい宿。いい宿でした ・女将さんもサイコー
- ・温泉は、穴喰温泉「ホテル・りびえら・しにくい」600円

4月16日(土)

海南町地先～高知県・東洋町～16.4Km～東洋大師～法海上人堂～佐喜浜地先＝約27.9Km

民宿「室戸荘」 0887-22-0409 高知県室戸市室戸岬町6939-1
一泊二食5800円

- ・宿はやや古い ・食事は良い ・女将さんはグッド ・トイレはウォシュレットでない
- ・風呂は近くの「ホテル明星」(あけのほし＝割引あり)
- ・宿泊したい宿

4月17日(日)

佐喜浜地先～夫婦岩～シレスト・むろと～御厨人窟～最御崎寺～室戸署地先＝約28Km

- ・宿は室戸荘に連泊。

参加費 バス代＝55000円、宿泊費＝37525円(5泊)

使用バス 清水町・ドリーム観光(ドライバー・M)

経費 寺経費はない

第1日目

4月12日（火）晴

清水町4：30—三島4：40—下土狩駅4：50—なめり駅5：00—竹沢種苗—東名—浜名湖SA7：10～30—新名神—淡路SA10：40—上鮎喰橋コンビニ12：25—恩山寺16：15～40—「お宝の湯」—民宿「ちば」（泊）

昨年秋に続き2回目の四国巡礼。参加者は前回と同じメンバー。天気は良かった。淡路SAで「蛸弁（900-）」と「明石焼き」を初めて食べたが、後者は甘くて口に合わなかった。

前回最終地、伊予街道・上鮎喰橋東交差点からR203を出発。この道は眉山の南を通過し、地蔵越から小松島市に向かっている。峠手前に「地蔵院」があり、「地蔵越遍路道」と呼ばれている。ここから、次の18番札所・恩山寺まで約14Km。



心とからだの御休み処「chiyo」

能田さん



峠を越えR55に進んで行く。この辺りではまだ桜が満開だった。道路沿いには、阿波・室戸シーサイドラインと呼ばれる高德線が走っている。一両編成の電車が凄いスピードで走り去った。

西須賀町に入る。15時近くなり歩き疲れた。まだ恩山寺まではある。フッと見ると

「心とからだの御休み処・chiyo」があった。折角だからお接待を受ける。能田邦子さんとお母さんで経営しているエステ・健康食品の店だった。温かいお茶が疲れた体に美味しかった。

大松川橋を渡ると、ランニング中の女子中学生の元気良い挨拶を受ける。ようやく恩山寺入口の看板があった。右折して今日の宿「ちば」の前を通り坂道を上って行く。上り切った寺入口に、桜をバックの「修行大師御尊像」が立っていた。



新平さんの写経

恩山寺



民宿「ちば」

ご朱印係りは、若い綺麗な女性だった。ここで鈴木新平さんが達筆な写経を納める。お勤め後は、「ちば」まで一投足。入浴は近くの「お宝の湯」に入った。「ちば」は、なかなか良い宿だった。また、ドライバーの宿泊料金が無料は嬉しい誤算だった。

第2日目

4月13日(水)晴

朝食5:30-出発6:30-19番・立法寺7:35~8:10-20番・
鶴林寺12:05~13:00(昼食・休憩)-21番・大龍寺15:20~
16:00-民宿「龍山荘」16:55(泊)

今日もいい天気だった。民宿「ちば」から立江寺は近い。寺近くには宿泊可能な立派な接待宿があった。しだれ桜が咲く立江寺の山門を潜る。境内はさほど広くないが本堂は大きく立派だった。

ここから田舎道をたどり次の鶴林寺に向かう。田んぼでは早くも耕運機が右に左に忙しく田植えの準備をしていた。勝浦町では、何処かのお母さんが飛んで来て、ティッシュ入れのお接待してくれた。

鶴林寺は山中なので、この先のローソンで昼食を購入する。勝浦川沿いに進んでいくと、前方西に尖った高い山が見えた。

先ほどからどうも気になって仕方がなかったが、どうやら「剣岳」(つるぎさん・1955m)だった。四国に2000m近い山があるのは驚きだ。



立江寺



お接待差し入れ



この先で鶴林寺の山道に入る。寺は標高約500m。ここは標高約30mだから、最低でも1時間半はみなければならない。でも、まあ山は元々好きだから全く気にはならない。ただ、暑いのは堪らない。

この寺名は、釈迦涅槃（入滅）のとき、沙羅の木が、まるで鶴の羽のように真っ白に枯れたという伝説があり、「鶴林」とは釈迦涅槃の「沙羅双樹の林」を意味するそうです。

お勤め後、境内で昼食を頂く。良い天気でのいい気分だった。対岸の山上に、21番札所・太龍寺らしきものが見えた。

ここから山を下り那賀川を渡り、再び山道に入り若杉谷川沿いに太龍寺に上って行く。那賀川から標高差約500m。登山なら1時間半程度。



鶴林寺



シンボルの鶴

太龍寺は雰囲気のある寺だった。説明板には、「古来より西の高野と呼ばれ、弘法大師24歳時の著書“三教指帰”に「19歳の時、阿国太龍嶽に登り虚空蔵求聞持の法を修し・・・」とあり・・・中略・・・青年時の大師の思想形成に多大な影響を及ぼした、当山は大師信仰の中で重要な位置を占めている、とあった。



太龍寺

見れば那賀川の向こうの山上に20番札所・鶴林寺が遠望出来た。時間も遅くなった。今日はここを下ればおしまい。急坂を龍山荘目指して下って行く。

龍山荘は回りに何もない超山中だが、宿はマアママ。完璧にお遍路で食べている宿だった。また歩き遍路で車がない場合、ここに宿がないと、どうにも困ってしまう。そんな意味で貴重な宿と言える。



外人のお遍路さん



龍山荘と
女将さん



第3日目

4月14日(木)晴

朝食6:00-出発7:30-22番・平等院8:40~9:15-由岐町「京屋食堂」(昼食)11:55~12:40-国民宿舎「うみがめ荘」16:00(泊)

朝、出発時宿の女将が見送ってくれた。宿から阿瀬比町を進む。途中、美しい桜が咲いていた。この先は孟宗竹が生い茂る薄暗い山道になった。ここで逆打ちの女性が一人やって来た。ここを女性の一人遍路はなかなか勇気がいるだろう。

小さな峠を越えれば平等院は近い。田んぼではトラクターが代掻きに忙しかった。ド田舎の田園地帯に巨大な平等院に驚いた。

長く急な階段を上って本堂でお勤め。この寺は何か解放的で大らかだった。様々なグッズも売っていた。トイレは立派で綺麗。

竹の杖が杖立てに沢山あった。微妙に曲がった美しいのを一本借りて来た。四国が全部終わったら返却しよう。今、伊豆もこの杖で歩いています。



平等院



ここから山を縫ってどんどん南下し、福井ダムに出る。今日は待望の海が見えるので嬉しい。山でガサガサ山菜を採っていた。こちらでは「スカンポ」が珍重されている。ワラビは余り食べないとのこと。

桜が満開の由岐坂峠を越える。眼下に青い海が広がっていた。これを下ると由岐漁港に出る。同時に牟岐（むぎ）線・由岐駅がある。そろそろ昼食時間だ。バスで駅付近を回り、「京屋食堂」に入った。夫婦でやっている食堂で、刺身定食が美味しかった。



午後は海岸線を更に南下する。美しい海を眺めながら、春を満喫したお遍路が続く。だいぶ疲れが出て来た頃、ウミガメとその産卵地で有名な大浜海岸が見えた。ここでは国民宿舎「うみがめ荘」宿泊が楽しみだった。

うみがめ荘に到着する。庭のプールに何匹かウミガメが泳いでいた。人間に慣れていて近くに行くと寄って来た。まだ幼いカメだった。

うみがめ荘は期待に反してひどい宿だった。まず、古かった。設備投資は殆どやっていない。3Fに宿泊だったが、エレベーターはなかった。トイレのスリッパはない。水道管はむき出し。洋式トイレは狭くてお尻を拭けなかった。食堂のワインは、買うより持ち込み料が高かった。

汚れた露天風呂は放置されていた。極めつけは、宿泊料金が前払いだった。経験的に宿泊費前払いは山小屋だけだ。ここは山小屋並みか??

第4日目

4月15日（金）晴

朝食6:00-出発7:10-23番・薬王寺7:40~8:20-室戸まで7
2Km地点10:45-お食事処「ゆずや」11:50~13:00-室戸まで
64Km地点13:40-鯖大師14:15-海南町・海部川16:30-大和
旅館18:10（泊）



表情が優しいお地藏さま（欲しかった）

薬王寺



朝、すぐ近くの二十三番札所・薬王寺に向かう。この寺は立派だった。日和佐川を渡って行くと右手の小高い山に堂々と佇立していた。あたかも街を睥睨するかのようだ。特に壇上伽藍は立派な塔だった。

今日から二十四番札所・最御崎寺まで約75Kmと長い。この間、勿論札所は一ヶ所もない。ここは頑張り所だった。

寺を出てR55を上って行く。頂上付近で日和佐トンネルを潜る。これを下ると再び港に出る。牟岐漁港だった。

食堂を探す。「ゆずや」があった。中年夫婦でやっている店だった。「うつぼ料理・モズク・かつ丼・刺身」を食べた。特に「うつぼの珍味」は、正に珍味で美味しかった。

午後牟岐線に沿ってR55を南下する。途中、草鞋大師、鯖大師がある。海南町に入っていく。時間は大分経過し疲れた。今日は、海部川橋で終了とした。ところが、バスが私たちの場所を分からなくて、新海部川橋まで疲れた足を引きずった。

温泉は、宍喰温泉「ホテル・りびえら・ししくい」は、6000円と安価でサイコーの温泉だった。宿は「大和館」。これもまた6000円と安価で料理・サービスとも、驚くほど良かった。疲れた体に「ソーメン」が優しかった。

4月16日（土）晴

朝食6:00ーバス出発6:40ー巡礼開始7:00ー高知県境9:10ー生田
果実園（すくものオバサン店）10:20ー東洋大師10:50ー焼きそば屋「
浜木綿」11:00～12:05ー法海上人堂13:40ー室戸岬まで21Km
地点15:20ー温泉「ホテル・明星（あけのほし）」ー室戸荘17:30（泊）

大和館の女将に見送られバスで昨日の最終地から出発。今日も室戸岬を目指し海岸線を歩く。すぐに坊さんの格好をした若い衆に会った。青年は、長岡岳秀（がくしゅう・僧侶名）さんで、和歌山県日高町・永福寺の息子だった。高野山で二年間修業し、終了記念のお遍路と話していた。



岳秀さん



すくものババさん

焼きそば屋のババさん



ほどなく、水庄トンネルを潜れば、待望の高知県だった。やっと高知県に入った。この先の高知県建設協会のお接待で、御夫婦が休んでいた。今回は、昨年秋より歩きの方を多く見かけた。春は出掛け易いかももしれない。

赤葉島に差し掛かる。この辺りは見事な砂浜が続いている。生見に来ると道端の店でババさまが「すくも・小夏（ニューサマーオレンジの小さいの）」を売っていた。ピラには、生田果樹園＝南国の潮風と太陽の贈り物・越冬完熟果実、とあった。お接待してくれ何個か頂いたが、疲れた体にとても美味しかった。岳秀さんも座って頂いた。

やがて東町の東洋大師に着いた。変化がないお遍路なのでお寺があると有り難い。国旗とか旗をいっぱい飾ったお寺だった。

寺を辞すと裏通りにババさまが営む「浜木綿」と言う焼きそば屋があった。時間は早かったが、ここで昼食にした。

焼きそばというか、焼きうどんというか、お好み焼きとか、モーレツなボリュームと味、圧倒的な存在感の代物だった。タマゴを掛けると20円追加料金だった。店にいた茶髪のトレーナーのヤンキー娘は、昔マグロ船で焼津に来たと話していた。

午後海岸線をグングン南下する。昔、この辺は道路が未整備で海岸のゴロタ石の音がゴロゴロと音を立てていたそうです。別名、ゴロゴロ海岸と呼ばれていたそうです。その頃は、お遍路も半端でなかったでしょう。



地元のオバサンがスカンポをバイクの籠に大量に入れていた。やっぱりこちらはワラビよりスカンポのようです。その日の宿で出ましたが、シャキシャキと美味しかった。(どうも食べる話題が多いですね・・・笑)

即身成佛・法海上人堂で休憩。今日もだいぶ歩き疲れを感じて来た。この先、室戸岬まで21Km地点で終了とした。

温泉は、ホテル・明星(あけのほし)。割引がありいい温泉でした。宿は室戸岬の室戸荘。古い旅館だったが、料理は良かった。珍しいクジラの刺身をいただいた。部屋の目前には太平洋が広がっていた。



スカンポババさん



親子??

4月17日（日）晴

朝食6:00ーバス出発6:40ー巡礼開始7:00ー夫婦岩8:30ーシレスト・むろと（昼食・休憩）11:30~12:25ー御厨人窟12:40ー最御崎寺13:15~13:50ー室戸署付近14:30ー温泉ー室戸荘16:10（泊）

バスで昨日最終地に向かう。今日もいい天気。今回のお遍路も好天に恵まれた。感謝・感謝である。朝日の中、再び室戸岬に向かう。途中のお接待で休んでいると一人の中年男性に会った。

茨城から来たという小野さんで、「単独・歩き・逆打ち・番外も全てお参り」の究極お遍路さんだった。逆打ちは、道順が分かりにくい・番外が大変との話でした。それにしても凄い方がいます。

やがて夫婦岩に着いた。なかなかイイ岩。上りたくなった。最御崎寺まで13Kmの標識まで来た。道端の喫茶店を借りて休憩。今日は最後のお遍路日。疲れがピークかもしれない。皆さんも似たり寄ったり。昼食はこの先の「シレスト・むろと」で頂いた。まだ新しい洒落た店だった。ここで、解禁になったばかりのアワビ料理を食べた。

巨大な青年大師像脇を通過し、空海の名の起源となった御厨人窟（みくろど）着。確かに洞窟から見えるのは、空と海だけだった。



夫婦岩

御厨人窟



寺はこの上にある。標高差65mはキツイ。今回最後のお勤めを済ませ下山。

今日の予定は金剛頂寺までだったが、結局15:00室戸署付近で終了となった。ちょっと計画も無理がありました。

ホテル・明星で入浴し室戸荘で連泊。室戸荘は昨日のが料理は良かったような気がしました。気のせいでしょうか。ともあれ、5日間のお遍路は無事終了しました。有難うございました。



最御崎寺



中岡慎太郎像



室戸荘



最後の晚餐

4月18日(月)晴

朝食6:00ーバス出発7:30ー淡路SA12:00ー下土狩18:30ごろ

それほど大きな渋滞にあわず無事帰着した。静岡の桜はすっかり終わっていました。お疲れ様でした。ご苦労様でした。合掌。

以上